

■ 期末考査に向けて

11月28日(月)から11月30日(水)まで2学期期末考査が実施されます。準備は順調に進んでいますか? 中間考査後、コロナウイルス感染拡大により、学級閉鎖になったクラスもあり、思うように学習が進んでいない生徒諸君もいるのかもしれませんが、明日以降、祝日や土日を上手に使ってしっかり学習しましょう。考査前に毎回注意していますが、1回1回の積み重ねが大事になります。3年生になってから推薦で大学が受験できるかにも大きく影響してきますので、頑張りどころです。



■ 今年度の推薦入試の傾向について

11月中旬に指定校制や公募制(※以下、指定校推薦、公募制推薦)といった学校推薦型入試が実施され、本校でも多くの3年生諸君がすでに受験しているか、今週末に控えている諸君もいるかという状況にあると思います。この推薦入試をめぐり、異なる事例で大学側から同じような回答を受けました。近年の傾向とも言えるかもしれませんので、特に1・2年生のみなさん、下記の内容をよく読んで参考にしてください。



1例目ですが、大学によっては指定校推薦の出願の際に、事前課題の提出を求められるケースがあります。その事前課題で1か所、漢字を誤って書いてしまった生徒が、どのように訂正したら良いか、筆者に確認に来ました。筆者は、「修正テープを使わずに二重線で消して、余白に正しい字を書けば良いと思うけれど・・・」とアドバイスしつつも、念のため、出願予定校に確認しました。それに対する回答は、「どのような提出の仕方をするのかも審査の対象とします」ということで、例えば、上述のように、「二重線で消して、余白に記入してください」といったことは言われませんでした。

2例目は、公募制推薦で事前課題を提出したケースです。条件に「自筆で書く」ようにとの記載がありました。近年は、大学でレポートを提出する際に、「パソコンでの作成」が常識となっており、手書きでの提出は少なくなっています。したがって、筆者も含め、「自筆とはパソコンでの作成も含む」と解釈できると考えましたが、出願予定の大学に問い合わせたところ、「提出の仕方も含めて審査します」との回答でした。ただ、事務担当の方は、「手書きの方が良いと思われます」とのアドバイスをくださったことから、その生徒はパソコンで作成した2000~3000字に及ぶ原稿を手書きで作り直しました。

以上のように、事前課題など出願書類の記載を誤ってしまった場合に、二重線で消したものを提出するか、原稿用紙等の様式をダウンロードして書き直すか、はたまたパソコンで作成したものを提出するかなど、大学側は提出方法についても一定の評価をしようとしているようです。ただし、公募制推薦については何ともいえませんが、指定校推薦ではそう簡単に不合格になるとは考えられませんので、まずは内容の充実を第一に考えて準備すべきだと思われます。

■ 3年生の合格体験記

今回から進学合格者、就職内定者の「合格体験記」を掲載していきます。特に1・2年生は参考にしてほしいと思います。今回は慶應義塾大学に合格した渡邊百音さんと東日本旅客鉄道株式会社水戸支社に内定した瀬谷天真君です。

【合格体験記】 渡邊百音さん（3年4組）
慶應義塾大学法学部法律学科合格（総合型）



この度、慶應義塾大学法学部に合格することができました。本当に嬉しいです！

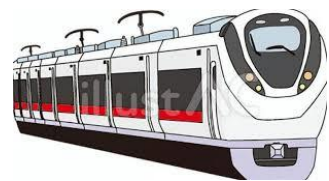
私は、早いうちから目標を掲げることで、時間に余裕をもって受験戦略を練ることができました。私の場合、高1の頃から第一志望を慶應に決めていたため、短期目標を定期的に定めるようにしていました。主な例としては資格の取得です。昌平で受験できる検定も多く、よく利用していました。最近は検定のスコア次第で入学試験免除になったり、得点に加算されたりする学校も少なくないのでおすすめです。

勉強についてですが、高3で初めて慶應の過去問を解いた際、難しすぎて絶望しかけました。しかし、「わからない問題が多い＝新しい発見がたくさんできる」と解釈し、できなくてもとにかく練習を重ねました。このような、勉強におけるポジティブ思考はすごく大事な気がします。根拠はないのですが、気分が落ちているときより上がっているときに学習した方が内容が頭に入りやすいように感じます。ポジティブ思考と直接関係しないかも知れませんが、私はよく勉強前に自分の好きなことをしてテンションを上げていました。

受験当日は母と面接の最終確認をして会場へ向かいました。試験内容は小論文と面接。筆記試験会場には友人と会話する人や過去問を解き直している人などがいましたが、私はLINEで家族から送られてきていた応援メッセージを読んで心を落ち着かせていました。おかげで緊張もほぐれ、冷静に試験に臨めたと思います。面接は想定外の質問を投げかけられましたが、沈黙が続かないように必死に言葉を繋（つな）ぎました。約1ヶ月後の合格発表日。合格の文字が表示された瞬間は本当に信じられなくて何度もログインし直したほどです。勉強と並行して書類作成や小論文、面接の練習をするのは大変だったけど、挑戦してよかったと思います。

最後になりますが、今まで私の受験に携わってくださった先生方、本当にありがとうございました。この学校で学んだことを大切にして、大学生活も楽しみたいと思います！

【合格体験記】 瀬谷天真君（3年6組）
東日本旅客鉄道株式会社水戸支社内定



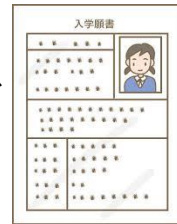
私が東日本旅客鉄道株式会社に合格することができたのは、多くの人の支えがあったからこそだと思います。

就職試験では、SPIの数学、国語、クレペリン、作文、面接、グループディスカッションがありました。学校の先生方や中学校時代の友達、そして野球部の仲間や両親の支えがあり、内定をもらうことができたのでとても感謝しています。特に先生方や野球部の仲間たちとの面接の練習には時間を割きました。

来年の4月から仕事が始まるので、それまでに自分の力量を少しでも高められるようにしたいです。残り少ない高校生活を最高の仲間たちと楽しむとともに社会に出る準備をしていきたいと思います。

■ 東日大・いわ短希望者への注意事項（1・2年生も要確認！）

学校推薦型の指定校制・公募制で東日本国際大学といわき短期大学に出願した3年生の中で、「奨学生申請書」を提出し忘れたり、受験料を納入してしまったり・・・という事例が見られました。再三にわたって、本紙や進路ガイダンスなどでお伝えしていますが、本校生は少なくとも「附属高校奨学生」ということで入学金が免除になります。「学業奨学生」や「スポーツ（部活動）奨学生」を希望する場合には、「奨学生申請書」にそのように記入する必要があります。おそらく、次年度以降も上記のことは適用になるかと思われますので、1・2年生のみなさんも予め頭に入れておくようにしてください。



■ 奨学金予約採用の結果通知を配付

先週までに10月末に日本学生支援機構から送られてきた「予約採用」の6月申込み分の結果通知を配付しました。学校を通して提出した書類に何らかの不備があったり、マイナンバー関係の書類を学校で入力後1週間以内に郵送しなかったりした場合には、次回の11月末、もしくはそれ以降に回されるものと思われます。6月に申し込んだのに、今回結果通知を受け取れなかった3年生諸君はもうしばらくお待ちください。



なお、配付した結果通知に従って、進学決定先の入学手続きの際に所定の手続きを済ませないと「予約採用」の申込みは完了となりませんので、ご注意ください。不明な点は日本学生支援機構か進学決定先にお尋ねください。

■ DeNA 育成内定の草野君にインタビュー！

プロ野球新人選手選択会議（ドラフト会議）で、横浜 DeNA ベイスターズに育成5位で指名された草野陽斗君（3年6組）にインタビューしました。本校から初のプロ野球選手誕生ということで、ぜひ近い将来、1軍で活躍していただくと願っています。

清水：いつごろからプロに行きたいと考えるようになりましたか？

草野：小学校2年生から父、兄の影響を受けてソフトボールを始めました。ソフトボールを始めてすぐくらいにプロ野球の試合を見に行き、そのころから憧れるようになりました。

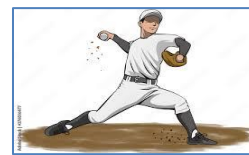
清水：横浜 DeNA ベイスターズに指名されたときの率直な感想は？

草野：正直、指名されるか不安で、呼ばれないのではないかともしましたが、指名されてホッと、じわりじわりと実感がわいてきました。

清水：草野君のセールスポイントは何ですか？

草野：ストレートの速球です。「外見は冷静に。心は熱く」をモットーにしています。最速151キロの速球に磨きをかけ、160キロを目指します。

清水：目指したい選手、理想の選手はいますか？



草野：昌平では最初、抑え投手でした。その頃から山崎康晃投手（DeNA）が理想でした。山崎投手は日本を代表する抑え投手で、こういう投手を超えないとプロではやっていけないので、目指さなければいけない人だと思っています。

清水：昌平高校を選んだ理由はどのようなところからですか？

草野：最初は市内の他校に入学して就職したいと考えていましたが、伊藤博康監督に中学のときから声をかけていただき、「上のレベルで野球をやっ
て、道を切り拓いていった方が良い」とアドバイスを受けたからです。

清水：昌平高校野球部で得たこと、学んだことは何ですか？

草野：伊藤監督は挨拶や礼儀を大事にしている、人として成長することの大切さをたくさん学びました。そのうえで野球に取り組まなければ何にもならないと感じ、そのことを日々意識して取り組んできました。

清水：伊藤監督はじめ、携わっていただいた野球関係の指導者に伝えたいことは何ですか？

草野：1年生の秋からベンチ入りさせていただきました。試合を壊してしまったときもいろいろアドバイスいただき、一番感謝しています。これからは野球で恩返ししていきたいと思っています。

清水：高校3年間苦楽を共にしてきたクラスメート（いずれも野球部）に伝えたいことは何ですか？

草野：3年間、朝から夜までずっと一緒の仲間です。進路はバラバラになりますが、本音で話し合えるこの仲間とこれからも関わっていきたいです。

清水：野球部をはじめ、後輩諸君に伝えたいことはありますか？

草野：コロナの影響で、今は当たり前のように野球をするのが難しい状況ですが、その中でも野球ができることに感謝し、自分たちの夏大会（県ベスト4）を超え、昌平初の甲子園出場を目指してほしいです。野球部以外のみなさんにも、自分の目標をしっかりと持ってがんばってほしいです。

清水：好きな言葉とその理由を教えてください。

草野：「野球で恩返し」です。ずっと素晴らしい環境の中で野球をしてることができました。それをプロ選手として野球で恩返ししていきたいです。

清水：最後に、昌平高校の先生方に一言お願いします。

草野：約2年半の部活動生活の中で、大会に応援に来てくださった先生方には本当に感謝しています。一流選手になって活躍する姿を届けたいと思っています。

清水：ありがとうございました。プロでの活躍を期待しています！！

文責：清水聖（進路指導主事）